

様式1 令和6年度 山梨県立やまびこ支援学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	自立と社会参加を目指すために個に応じた指導の充実を図り、家庭や地域と連携して主体性をもって生きる心豊かな人間を育てる。
-----------	---

本年度の重点目標	基礎的・基本的な知識及び技能の習得と情報活用能力の育成	達成度	A	ほぼ達成できた。(8割以上)	評価	4	良くできている。
	自ら考え、判断、表現する力の育成		B	概ね達成できた。(6割以上)		3	できている。
	学びに向かう力、社会と関わりながらよりよく生きるための人間性の育成		C	不十分である。(4割以上)		2	あまりできていない。
	豊かな心と健やかな体の育成		D	達成できなかった。(4割以下)		1	できていない。

自 己 評 価				年度末評価(1月15日現在)		
本年度の重点目標				自己評価結果		
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	自己評価結果	達成度	成果と次年度への課題・改善策
1	基礎的・基本的な知識及び技能の習得を体験的に行う。また、個々の発達段階に応じた情報活用能力の育成を推進する。	個々の児童生徒の学習計画を家庭と共有しながら、計画的に学習指導を展開する。	個別の指導計画 学校評価アンケート 学部等取り組み評価	家庭訪問、個別懇談、日々の連絡帳など保護者と学習計画及び実施状況について、成果や課題を共有することができた。登校が難しい児童、生徒についてオンラインを活用した取り組みができた。学部内だけでなく、学部間で指導内容を確認することができ、学校全体で指導の連続性に対して意識を向上できた。また、学部研究で情報活用能力について協議を重ね、とらえ方や授業づくりに生かせるように取り組むことができた。	B	家庭と学校との取組で、保護者同士のつながりがさらに持てるよう学校行事等の取り組み方に工夫が必要である。オンラインで学習を継続することなど、端末の普段使いをさらに推進する。さらにコミュニケーション面での活用や授業での対話的、協働的な取組を推進する。また、情報活用能力を育成する授業づくりについて研究を進めていく。
2	自ら考え、判断、表現する力を学習活動の中で積み重ねられるよう、学習環境を整備し、個々の児童生徒の思考力や表現力を育む。	生徒実態を的確に反映した指導計画を策定し、PDCAサイクルに沿って授業を展開する。	個別の指導計画 学校評価アンケート 学部等取り組み評価	PDCAサイクルに基づいて授業が展開できる体制を継続している。授業と評価の一体化を図り、授業の充実が図れるように各部で取組を行った。個別指導、グループ指導を組み合わせながら、お互いの良さを引き出せるよう言語活動を取り入れた支援を展開することができた。また、専門家等を活用し、違った視点から児童生徒の実態を知り、より効果的な指導につなげることができた。	B	授業づくりに関しては、職員同士で意見交換する場を日常的に作り、指導、評価に生かす。専門家を活用し、多角的に児童生徒の実態を把握するようにし、関係機関とも連携しながら指導の充実を図る。教師の授業における支援(直接的な支援、間接的な支援)のバランスを図り、児童生徒が自分で判断できる、意思表示しようと思える環境づくりを意図的に行う。
3	主体的に社会と関わりながらよりよく生きるために、集団でのルールを遵守したり、自他を尊重したりする態度を育成する。	児童生徒の実態に合わせた学習環境を整備し、自ら判断して行動できる態度を養う。	個別の指導計画 学校評価アンケート 学部等取り組み評価	学年、学部、全校といった集団を形成することで、所属意識や役割を理解し、年齢に応じた活動を引き出すことができた。その取組の中で集団のルールや他者への思いやりを育む時間を設定することができた。いじめ防止への対応の一助とすることができた。さらに、交流および共同学習で校外とのつながりもより太くなり、直接的な交流とリモートや作品交流といった間接交流など目的に応じた参加の形態で、地域の一人として活動に取り組めた。	A	校内で培った経験や、校外学習を通してより学びを深めたり、個別の教育支援計画によるニーズに応じた居住地校交流や現場実習などを実施したりして、地域と連携し学びを充実させていく。地域の人のかわかり、コミュニケーションを取っていくことで、社会性を培っていく。学年、学部、全校といった集団活動の特徴を生かし、相手のことを受け入れたり思いやりがもてたりできるよう環境づくりを行う。
4	豊かな心と健やかな体の育成を図るため、芸術活動に触れたり、体を動かすことの喜びを知ったりする。また、健康管理を体験しながら、健康、安全、衛生に対する意識を向上させる。	児童生徒会活動等で児童生徒の主体性を向上させたり、異年齢集団での活動による社会性の涵養を図る。	個別の指導計画 学校評価アンケート 学部等取り組み評価	運動面では、運動量や運動の質に着目し各部計画的に教育課程を設定し、毎日取り組んだ。感染症対策は、児童生徒が場面や状況に応じて対応することができた。また、全校や学部に向けて、人形浄瑠璃やコンサートなど生の芸術に触れる機会を設定し、鑑賞したり体験したりすることができた。児童生徒は、年3回の避難訓練に加え、予告なしシェイクアウト訓練へ対応することができると防災へ備える力が高まった。非常ベル等の確認が行い、より実践的な訓練を実施できた。	B	学習の経験をもとに、体育的、文化的活動をさらに発展できるように計画していく。地域の人材の活用、専門家を引き続き活用する。また、児童生徒が健康管理について関心が持てるよう、暑さ、寒さ、感染症対策等、対応が判断できるような環境づくりを行っていく。防災については、職員間で役割を確認したり、施設設備について理解したりして、持続可能な組織の在り方の視点を持つ。
		特別活動や校外学習、芸術鑑賞会等を通じ地域の歴史や文化、芸術に触れる機会を設け、感性を刺激し豊かな心を育む。	個別の指導計画 学校評価アンケート 学部等取り組み評価			
		様々な運動をする機会を設け、児童生徒の実態に応じた活動を展開し、体を動かすことや健康管理の素晴らしさを実感させ、明るく健やかな生活を目指す素地を作る。	個別の指導計画 学校評価アンケート 学部等取り組み評価			
		避難訓練等をおとし防災に対する意識を高め、自分の身を守るこの方法や、普段からの備えや心掛けの大切さを身に付けさせる。	個別の指導計画 学校評価アンケート 学部等取り組み評価			

山梨県立やまびこ支援学校校長 小嶋 加津美

評価	4	良くできている。
	3	できている。
	2	あまりできていない。
	1	できていない。

学校関係者評価	
実施日 (令和7年1月29日)	
評価	意見・要望等
3	・学校がコロナ禍前の日常にほぼ戻ったことで、保護者が学校に来る機会も増えて、学園祭や授業参観などに参加できたことは良かった。 ・教科別の指導を行っていることから、教科横断的な取組について、整理していく必要がある。また、合理的配慮の内容は、自立活動の時間の指導において指導されるべきものであることから、自立活動と各教科との関連を図り、各授業における配慮を明確にする必要がある。 ・ICT機器の活用による情報活用能力向上の取組は、学部研究で協議し実践に生かしていることは評価できる。また、登校が難しい児童生徒に対して、オンライン授業を実施することで登校を促す試みは良いと思う。
3	・よりよい授業づくりをするために、実態把握、指導課題やかわかりの手立て、評価方法等を明確にし、教員間で共有することが必要である。 ・教員間の意見交換の場を活用しながら、より効率的に時間を使うように工夫をして、授業づくりや教材作製に取り組んでいただきたい。 ・児童生徒の指導を充実させるためには、教員間の情報共有が欠かせない。授業づくりや教材作製に重きが置かれるように、会議に優先順位をつけ、時間を短縮を進めていただきたい。 ・児童生徒が自分の考えを伝える能力を育成することが将来的な自立につながる。学校生活の中に自己判断、自己決定できる場面を意図的に仕組んでいくことが大切だと思います。
3	・学園祭や児童会活動、修学旅行、校外学習が実施され、集団での活動や直接的な体験ができたことには大きな意味がある。地域に開かれた学習活動が積極的に計画・実施されており、とても評価できる。 ・児童会活動は、児童生徒が大集団の中で先輩や後輩、友達と共に活動することを通して、社会性を身につけることができる。 ・交流及び共同学習は、対面での実施でお互いの存在を知り、相手を尊重する気持ちが育つ。今後さらに交流が進むよう連携を図ってほしい。 ・保護者には、小学部の段階からこの地域の進路状況を知ってもらい、学校と共に卒業までに必要な力、課題等を考えてもらいたい。 ・学校での授業や諸活動および地域社会との様々な交流活動の中で集団や社会とのかわかり方やルールを守ることの大切さを理解し、実践できるようにする。今後も様々な機会を設定していくことが大切である。
3	・人形浄瑠璃や音楽コンサートなどを実施し、児童生徒が本物の芸術を体験する機会を持っていることは良い。 ・全国各地で様々な災害が起こっている。また、南海トラフ地震の発生確率も上がっている。学校のある大月・上野原地域は山間部が多いという地域の特性を踏まえて、地域と連携した避難訓練に取り組んでほしい。 ・教科別の指導に力を入れている一方で、教科前の学習(初期学習・概念形成)や肢体不自由に関する学習については、もっと学ぶことが必要ではないか。校内研修システムの充実や校外研修の推奨など、更に取り組んでいってほしい。 ・様々な想定での避難訓練を実施し、自分の取った行動について振り返らせることで、災害発生時の対応について具体的に身につけさせることができる。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。